

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた グーチョキパー
- 4 今月の詩 月 山村暮鳥
- 5 たし算 7の段
- 6 ことわざ いもの煮えたもご存じない 鬼に金棒
井の中のかわず大海を知らず 瓜二つ
- 7 かけ算 8の段
- 8 俳句 松尾芭蕉 山本荷兮 内藤鳴雪
- 9 かぞえうた 1脚 1機 1両 (イス、飛行機、新幹線)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた だるまさん
- 12 音の絵本 マツムシ キリギリス ハヤシノウマオイ
ケラ カンタン
- 13 イメージストーリー リード君 (第7話 遠足)
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた 手をつなごう
- 15 おはなし 三匹のくま
- 16 童謡 どんぐりころころ
- 17 漢詩 独り敬亭山に坐す
- 18 百人一首 中納言朝忠 中納言行平 鎌倉右大臣 小式部内侍
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

*番号は、CDトラックNOです。

《グーチョキパー》

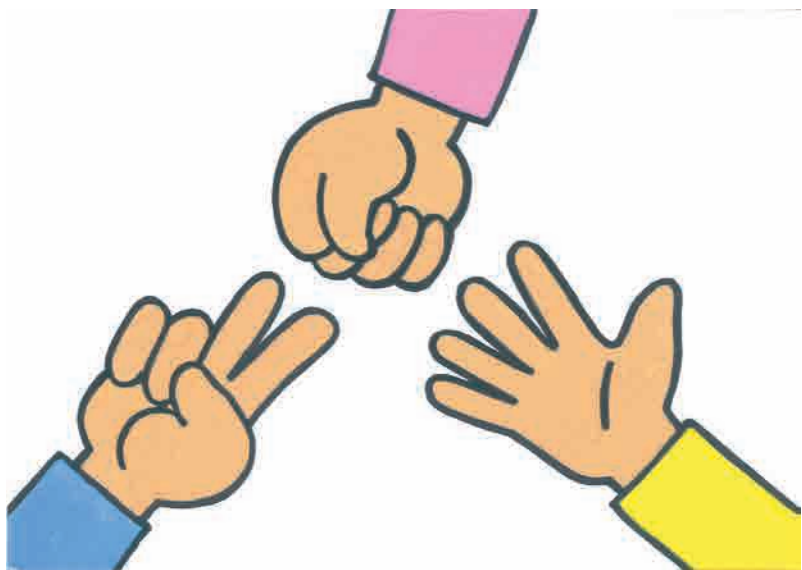
グーチョキパー グーチョキパー

グーとグーで ゆきだるま

チョキとチョキで めがねさん

パーとパーで ぞうのみみ

グーチョキパー グーチョキパー



つき
月

やまむら ぼちよう
山村暮鳥

はっきりと

つき
月がでた

おか うえ
丘の上をのっそりのっそり

だれだろう、あるいているぞ



ことわざ

いもの^に煮えたも^{ぞん}ご存じない
世間^{せけんし}知らずで物事^{ものごと}にうかつなこと。



おに ^{かなぼう}
鬼に金棒

強い^{つよ}鬼^{おに}に金棒^{かなぼう}を持^もたせるとさら^{つよ}に強くなることから、
強い^{つよ}上^{うえ}にもいっそう強^{つよ}さが増^ますこと。



い ^{なか} ^{たいかい} ^し
井の中のかわ^なず大^{たい}海^{かい}を^し知らず

自分^{じぶん}だけの狭^{せま}い知^ち識^{しき}にとらわれ、^{ひろ} ^{せかい} ^し広い世界^{せかい}を知らない。
世間^{せけんし}知らずであること^{こと}のた^たと^とえ。



うりふた
瓜二つ

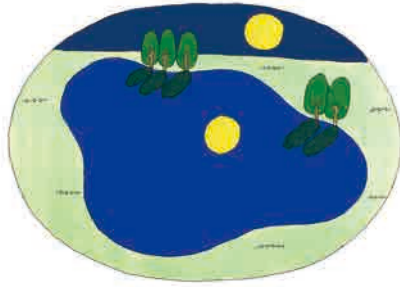
見^み分^わけがつかないほどよく似^にていること。



俳句

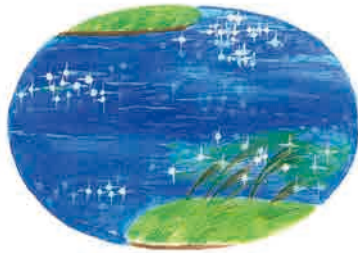
めいげつ^{めいげつ}や いけ^{いけ}をめぐりて よ^よもすから

まつお ばしょう
松尾芭蕉



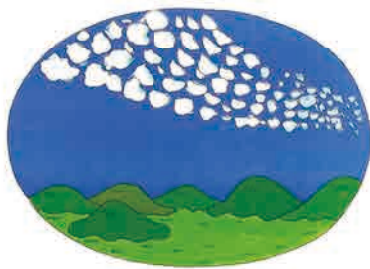
あき^{あき}のひ^ひや ちらちら^{うご}動く みず^{みず}のう^{うえ}え

やまもと か けい
山本荷兮



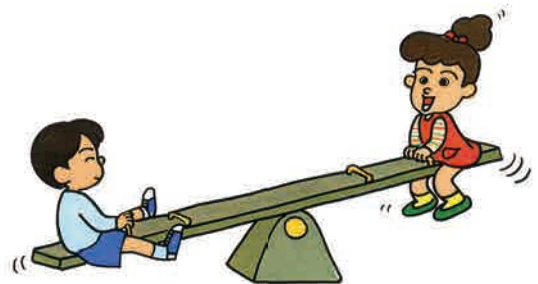
あき^{あき}のくも^{くも} ちぎれちぎれて なくなりぬ

ないとう めいせつ
内藤鳴雪



なぜなぜ

- 1 ^{あし}足のぼって、おしりでおりてくるものなあに？
- 2 こいでもこいでも^{まえ}前にいっては、^{うし}後ろに^{もど}戻るものなあに？
- 3 ^{あな}穴をほったり、お^{やま}山をつくったりできる^{ばしょ}場所は、どこですか？
- 4 ぎったんばったん、^{うえ}上になったり^{した}下になったりするものなあに？



《だるまさん》

- ① だるまさん だるまさん
にらめっこしましょ
わらうとまけよ



うたにあわせて^て手をたたく

- ② あっぷっ



^て手でおおをかかす

- ③ ぷ！



^て手をはなして、おもしろいかおをする

音の絵本

今月は、いろいろな虫たちです。

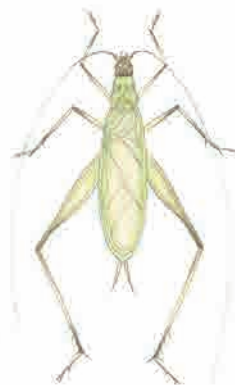
- 1) マツムシ
- 2) キリギリス
- 3) ハヤシノウマオイ
- 4) ケラ
- 5) カンタン



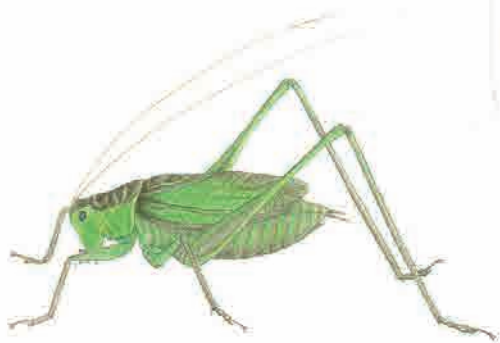
ケラ



マツムシ



カンタン



キリギリス



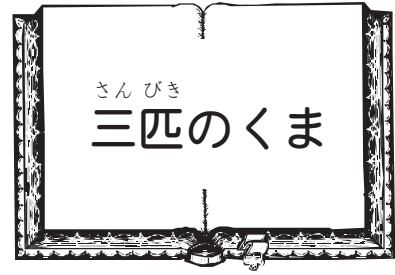
ハヤシノウマオイ

《^て手をつなごう》

つなごう つなごう ^て手をつなぐ
^{そと}外に^で出たとき ^て手をつなぐ
^{みち}道を^{ある}歩くよ ^て手をつなぐ
^{ひと}人がたくさん ^て手をつなぐ
つなごう つなごう ^て手をつなぐ
^{あんしん}安心 ^{あんしん}安心 ^{たの}楽しいね

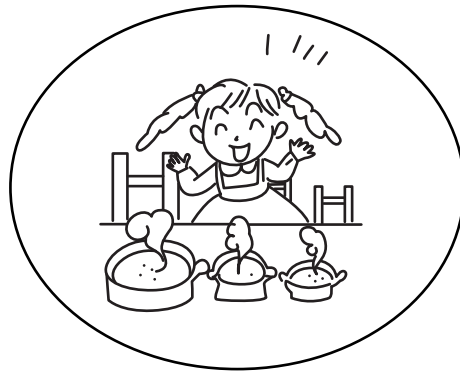
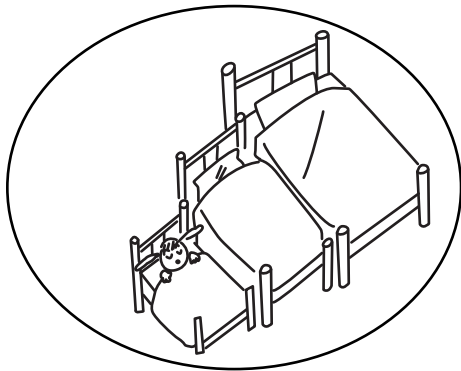
つなごう つなごう ^て手をつなぐ
^{ひと}人にぶつかる あぶないね
^{くるま}車にぶつかる ああ こわい
^{まいご}迷子になるよ さみしいね
つなごう つなごう ^て手をつなぐ
^{あんしん}安心 ^{あんしん}安心 ^{たの}楽しいね





「さんびきのくま」は、おんなのことくまのおやこのおはなしです。
お話を聞いたあとで、しつもんにとたえてみましょう。

- 1 おんなのこがいえの中に入ったとき、さいしょなにをみましたか？
- 2 いえのいまにはイスがありました。おんなのこは何をしましたか？
- 3 となりのへやにはベッドがみつありました。おんなのこは何をしましたか？
- 4 さいごにおんなのこはどうなりましたか？



独ひとり敬けい亭てい山ざんに坐ざす

李り

白はく

衆しゅう鳥ちよう高たかく飛とびて尽つき
孤こ雲うん独ひとり去さりて閑かんなり
相あい看みて両ふたつながら厭あかず
只ただ敬けい亭てい山ざん有あるのみ



百人一首

逢ふことの

絶えてしなくは なかなか

人をも身をも 恨みざらまし

(中納言朝忠)

立ち別れ

いなばの山の峰に生ふる

まつとし聞かば 今帰り来む

(中納言行平)

世の中は

常にもがもな 渚漕ぐ

海人の小舟の 綱手かなしも

(鎌倉右大臣)

大江山

いく野の道の 遠ければ

まだふみも見ず 天の橋立

(小式部内侍)



中納言朝忠